

第 103 回 番組審議委員会 議事録

- 日 時：2024 年 4 月 23 日（火曜）13 時 00 分～
- 場 所：四ヶ町商店街組合ビル 4 F 会議室
- 課題番組：毎週金曜日 13 時 「情報玉手箱」 出演者：パーソナリティ＝キタさん

審議内容の記録

- Y 委員：コミュニティ FM の目的にかなった地域密着番組で、選曲も良く好感度の高い番組。廃止路線バスの課題を考えるキッカケになった、この番組のような地域密着という視点で、FM させばも、この 4 月で廃刊になるミニコミ誌のようにラジオ伝言板、各町内会長の出演、自治協議会との連携、敬老者の旅行での同行取材など、地域との密着度を更に強化して欲しい。
- F 委員：今回は食事を作りながら一般聴取者のように、「ながら聴き」をしてみたが、構成も良い、情報も分かりやすい、そのトークに本人のエピソードも交え、一緒にバスに乗って車窓を楽しんでいる気分になった。1 回も切らずに聞いた初めての番組であった。話すテンポも優しく、「ながら聴き」でも心酔する、これぞ佐世保の番組と感じた。
- F 委員：バス停毎の描写がきめ細かで、自分の青春時代を思い出される。減便になる理由もリアルに言って下さり分かりやすい。車窓はスマホより面白いと感じた。番組タイトルも良い名前です。
- S 委員：廃線となるバス路線をルポルタージュ風に巡り、仕事を超えての取り組みは、本物で心地良い番組であった。話し方の抑揚、語尾、言い回しに違和感があったが、だんだんと馴染んできたのは、内容が深いからでしょうか。町名の漢字の違い、山澄と山祇なども興味深い視点であった。アーケードを横切る唯一のバス路線の話しや、昔のジョスコ行路線にも言及、エンブラ事件、貸しボートへと繋がり、佐世保の歴史や昔の風景に話が及び、我々世代には懐かしく話に引き込まれた。路線減の原因、理由の話は市民の理解を深め、更に、スマートバスやアプリによる利便性も説明され、公共交通や運輸業界の課題・現状を市民に投げかける有用な番組であった。
- K 委員：話し方に癖があったが、だんだん引き込まれ、それが面白くなってきた。ダメな所を捜しながら聴いたが、良い意味で期待外れ。メリハリのある構成も良く、CM への入り方、CM 開けのトークも自然で、楽しく、昔の佐世保に想いが巡った。しみりした話も交え、空母エンタープライズの話などにも亡くなったおばあちゃんの話しを聴きながらのひと時を思い出した。選曲もアグネスチャンの歌などもあり、懐かしさを覚え、「昔話のある佐世保」を誇らしく思いました。
- K 委員長：ザ・ローカル番組と言う番組で、安定感があり、構成も最高で、ジブリ映画の街中風景を彷彿とさせた。佐世保の呼称は、させぼ？させほ？町名の語源など、軽妙な話題も楽しかった。視点を変え、このように地域密着型の番組をどんどん増やして欲しい。

※その他、4 月改編の説明と共に、他の番組についての意見交換も行い、14:00 に閉会した。